

平成 29 年度 第 1 回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成 29 年 7 月 21 日（金） 15 時 00 分～16 時 30 分

場 所：伊豆市役所本庁別館 2 階 大会議室

委 員：19 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
伊豆市副市長	本多 伸治	
総合政策部長	田村 英樹	副会長
健康福祉部長	村井 克代	委員
産業部長	堀江 啓一	委員
教育部長	金刺 重哉	委員
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官	藪田 丈夫	委員
静岡県交通基盤部都市局地域交通課長	(代)山崎 友寛	委員
一般社団法人静岡県バス協会 専務理事	平野 洋一	委員
静岡県タクシー協会 賀茂・修善寺副支部長	寺山 冗二	委員
伊豆箱根バス株式会社 常務取締役	岩田 晃	委員
株式会社新東海バス 代表取締役	土屋 成人	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	海野 雅之	委員
建設部長	山田 博治	委員
大仁警察署 交通課長	(代)佐沢 博英	委員
伊豆箱根鉄道株式会社 執行役員鉄道部長	井村 眞一	委員
株式会社伊豆中央自動車 代表取締役	佐藤 諭	委員
伊豆市区長会長	勝呂 義衛	委員
伊豆市 P T A 連絡協議会長	鈴木 和仁	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	鈴木 實	委員
建設部都市計画課長	井上 貴宏	
東海自動車株式会社 バス営業部 部付課長	和泉澤 貴治	
伊豆箱根バス株式会社 営業部乗合課 係長	岩崎 勝一	
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	アドバイザー
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主査	飯田 克彦	事務局
総合戦略課 主任	室住 実希	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局

資料：①次第、②席次表、③委員名簿、④資料 1：伊豆市地域公共交通会議の役割について ⑤資料 2：伊豆市における公共交通の現状 ⑥資料 3：平成 29 年度 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 推進事業（案）について ⑦補足資料 1：伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 概要版 ⑧資料 4：天城湯ヶ島地区における予約型乗合タクシー実証運行 運行計画（案） ⑨補足資料 2：天城湯ヶ島地区における地域交通の実証運行について

## 1. 開 会

## 2. 挨拶（市長）

私はよくバスに乗るが昨日今日も通勤でバスに乗った。今朝8時台のバスで私も含め乗客3人だった。そのうちの一人はよく知っている方だが少し障害のある方で、その方にとって公共交通は絶対必要であり、ないと移動が困難になる。

本日は後程事務局から新たな工夫もいくつか説明させていただくが、その上で、市民の皆さんには公共交通を残すのであれば使う、使って残すという意識をしっかりと今回は訴えていただきたいと思う。地域公共交通、地域医療、地域のお店など、残す残さないは地域住民である私達自身ですので、そこをしっかりと訴えた上で新たなフィーダー交通等の取組を進めて行きたいと思う。皆様からは忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、最後までよろしくお願い致します。

## 3. 委嘱状交付（省略）

### <会議の成立報告・議事録の公開>

## 4. 議事

### 議事内容

#### （1）地域公共交通会議の役割・市の公共交通の現状について

資料1・資料2について事務局より説明。

関連事項として自主運行バス留車制度の廃止について東海自動車より説明。

東海自動車：これまで留車制度として、持越温泉線などはバスの終点にバスを停めておいて毎回運行する形をとっていた。下尾野口、湯ヶ島、持越温泉、柿木大野行き最終便については、最終便の到着箇所においてバスを停めて、そこに停めている自家用通勤車両で自宅に帰り、また翌日、電話点呼行ってから、持越温泉などの出発地に行き運行するということであった。これにより、経費の削減を図っており、昭和50年代から行っていた方法である。しかし、運転手の健康状態などを直接確認できない制度であることについて現行の制度とかけ離れており、今後は高いレベルでの輸送の安全確保のために、本制度を廃止することを市に報告した。これにより、朝、年川営業所から留車地まで回送、最終便も留車地から年川営業所へ回送する形になる。既に下尾野口、持越温泉については6月末に廃止し回送にて運行している。湯ヶ島、柿木大野についても今後、市と協議し同様の対応を検討して行く予定。

事務局：伊豆市における公共交通の現状を2ページに示しているが、留車制度の廃止により回送経費が年間1,200万円程度の増加を見込んでいる。今後、自主運行バスの路線については早急な見直しを検討する。

#### 【質疑応答】

- ・特になし

#### （2）平成29年度伊豆地域生活交通ネットワーク形成計画推進事業について

##### ①平成29年度推進事業について

資料3、補足資料1について事務局より説明。

#### 【質疑応答】

委員：湯ヶ島地区の実証運行計画案について、出口の到着が午前10時、午後14時となっている、この時間は、修善寺に行きたいような人にとっては路線バスへの連絡はあるのかお聞きしたい。なお、この計画は高齢者にとっては喜ば

れる案であると思う。出来ればこのような計画を高齢者に伝達して内容周知を促し、実証運行について利用していきたいという気持ちはあるが、市の方ではどのような計画を持っているのか伺いたい。

事務局：修善寺方面には乗り継ぎできるダイヤの設定を考えている。また、高齢者などの地域の人に意見を伺いながら、また9月頃から様々な形でPRをしていきたいと考えている。

ドバイ：実証実験を行うにあたって考えていただきたいことなどあれば意見をお願いします。

委員：地域のために大変有効な計画であると思う。一方、疑問に思っているのは、資料2の2ページに、修善寺温泉病院8本の便が出ているが、修善寺駅から温泉病院について、病院のマイクロバスが走っている中で、バスを走らせる必要があるかについて再検討して頂いて、進めていかないといけないと考える。全ての路線について検討して、新しい路線の検討に入っていく必要がある。

事務局：病院の送迎サービスがある地域もあるため、その点については留意していきたい。

【協議結果】原案どおり承認

## (2) 平成29年度伊豆地域生活交通ネットワーク形成計画推進事業について

### ②天城湯ヶ島地区地域内交通導入に関する実証運行計画について

資料4、補足資料2について事務局より説明。

ドバイ：地区の方と話し合いをしてこのような案が作られているとのことであるが、実証運行計画の内容について、ご意見をお願いします。

委員：最初の実証運行となれば、本格運行に移行する場合、どのような数字になったら移行するのか、クリアできなかつたらどうするのか伺いたい。資料に人数があるが目標値については、どのように詰めていくのか。アンケートでは、月曜日から金曜日の需要があるようであるが、月、水、金曜日にした理由も伺いたい。運行すれば、立ち寄りするために持越温泉に行って、猫越や長野に寄っていくとなると運行時間を決める場合はどのように対応するのか、また、利用者にどのようにして知らせるのか。乗合率を高めることによって、負担金が少なくなると思うので、乗合率を目標に入れるのかどうかという点もある。バス停を増やすことはかなり良いと思うのであるが、タクシーと同じか近い運行になるのでフリー降車にした方がよいのではないかと。危険性がある場所などはフリー降車は難しいと思うが、警察と打合せして、フリー降車方法がとれないかとも思う。

事務局：目標は本格運行の目安として設定していきたいが、地域の運行を始めた時に地域に声をかけて、ある程度、目標は設定させて頂きたいと考えている。月、水、金曜日の運行については、これまで3回地域に入り協議した中で、曜日のニーズと買い物を含めた月に何回くらいというところを協議した。週に何回、月に何回といった意見が多い中で、一番多い目的の買い物については、ある程度日を絞って行う方法があるということで、月、水、金曜日という方法を設定した。運行時刻は3人乗車する場合も1人乗車の場合もあるため、今後、事業者さんと運行に向けて詰めていき工夫をしたい。乗合率についても目標値と含めて検討していきたい。バス停については、高齢者にとっては中々バス停にたどり着くのが難しいというがあるので、ドアツードアが良いとは考えるが、今後、警察と協議してバス停の安全性の確認をして、可能性論として検討していきたい。

委員：A3資料の4番について、予約してある停留所で待っている場合、どのくらいの時間待つことになるのかについては利用者に連絡をしてくれるのか、どういう考えであるかお聞きしたい。

事務局：タクシー協会さんに相談はしているが、実際の事業者さんがどこまでフォローできるかという点であるが、相談させて頂きたい。なお、利用にあたっては住所、電話番号を事前登録させて頂く予定なので、事業者と相談しルールを決めてやってみて、想定外の事などはアンケートなどでご意見をいただきながら調整して行きたい。

委員：事業の試験運行は良いことと思うが、この地区を選定した理由は、どのような理由であるか。

事務局：枝線が運行される地域が市内に多くある。それらの地域では、通学の朝と晩は運行があるが、昼間においてはバスは無いという空白地域がある。エリアの検討を行い、全体の見直しや自主運行も見直すというところで設定している。また、天城湯ヶ島地区は支所の移転がある点も理由としてある。

委員：伊豆市のネットワーク図について、資料2の自主運行バスの運行経費を見ると、伊豆半島全体の課題であるが、自主運行バスは修善寺駅を起点としている。修善寺、土肥を起点として運行は事業者が運行している。フィーダーの考え方として、実証実験の考え方では持越温泉、その他長野を運行しているが、自主運行を実施している路線と幹線が重複することになる。この質問としては、地域の方としては、持越温泉から修善寺まで乗れる実態があるが、今後、修善寺まで行かないで湯ヶ島、出口という拠点で乗り継ぐということ想定しているのか、自主運行バスと実証運行は併用するが、最終的に市の運行として重複はやめてしまうのか伺いたい。また、地元に入った時に、修善寺までに行けなくなる不安をどのように説明していったのか、また事業1のフィーダーは進めていく方向なのか伺いたい。

事務局：修善寺まで行けないことの説明については、今回の実証運行は414号線に行くところまでの運行であるが、将来、通院や買い物となると、湯ヶ島温泉口までは目的地になりえないので、出口まで一部重複するという考えで地域内の交通として設定している。自主運行との重複については、もともと採算があわないところを、通勤と通学とあわせ如何にフォローするかというところであり、幹線と近いところもあるが全体の中で検討していきたい。

会長：路線バスがあるが、一度、通学バスを市でやってしまうと、天城湯ヶ島は民間事業者のバスが営業できなくなってしまう。通学は需要が確定しているため営業上確定している、事業者さんの採算が確定しないところを市がやるしかない。高齢者にとってはマックスバリュぐらいまでが必要かというのが現場の実態である。

委員：タクシー想定ということでありありがとうございます。デマンドについてであるが、予約が運行の前日までということであるが、そのあたりデマンドの利用の仕方をPRして、この交通があるということに乗られる方に広報して頂くことが重要である。この半年の実証実験、成功すればよいかなと考えている。

委員：事業のネットワーク計画について、幹線をフィーダーにするという視点であるが、朝夕は通勤、通学ということであるが、朝も望めるとなるとデマンドという方向もあるのか。

事務局：利用者の変動は把握して検討していきたい。

アドバイザー：学校に行く人は今日に行くから電話して予約をするという状況は無いが、車両を小さくしてフィーダー化する可能性があるというつくりをしている。とは言いながらデマンドでなくても良いのではということも出てくる。セダンにす

ると乗れないということもある。実験の中で地域の中の理解、周知の中で落とし込んでいけると思っている。

**【協議結果】** 原案どおり承認

ただし、今後関係機関と詳細協議を行う際、軽微な調整はアドバイザー-預かりで調整し、計画変更がある場合は書面にて協議を行う。

## 5. その他

○地域公共交通全体として何かご意見はあるか。

会 長：出口のバス停について、湯ヶ島方面と土肥方面の結節点になっており、土肥高校に行く方がちょうど利用するが、そこには屋根をつけられない場所である点、課題と考えている。バス待ち環境整備事業の中で、何か所かそのようなところが出てくると思う。その時は都市局だけでなく道路局の方も併せて調整させていただきたい。また観光シーズンなど時季により利用客が増えるバス停もあり、いくつかの関係部局にまたがることあるかと思うので、その時はまたご相談させていただきたい。

○事務局よりその他連絡事項、次回会議の日程等について説明。

事務局：第2回は12月1日（金）に開催予定。今年度の取り組みの進捗状況の説明をさせて頂くとともに、次年度の運行に関する協議も行いたい。

## 6. 閉会（16時30分）